

令和元年度 くまもと・わくわく基金 
冠基金 東京エレクトロン九州・マッチングギフト
冠基金 公益社団法人 熊本法人会ファンド



事業報告

団体名： NPO法人 福ねこ舎

助成事業名： 福ねこ舎文化事業

(1)実施内容

- 福ねこ舎は、障がい者の就労を支援することを目的とし、障がいを抱えながら自立した日常生活、社会生活を営むことを目指しています。
- そのためには日常的に地域との交流が必要。文化活動はイベントとして、大きな花火を打ち上げれば終わりというのではなく、毎月、毎日の活動が大切。
- コンサート、展示、イベント、講座、学習会などをひんぱんに開催しました。

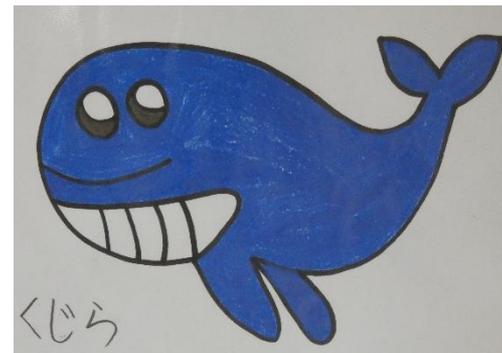
(2)助成金の活用

- ひとつひとつのイベントの広報を通じ、なにをしようとしているのか、PRに努め、また、どうだったのか、どう受け止められたか、ということに、時間と助成金を使うことになりました。
- ①ポスター、チラシ、案内などの印刷費
- ②ポスター、チラシ、案内、感想などのアンケート結果の送付など、送料、郵便料金などに、助成金の多くは使われることになりました。

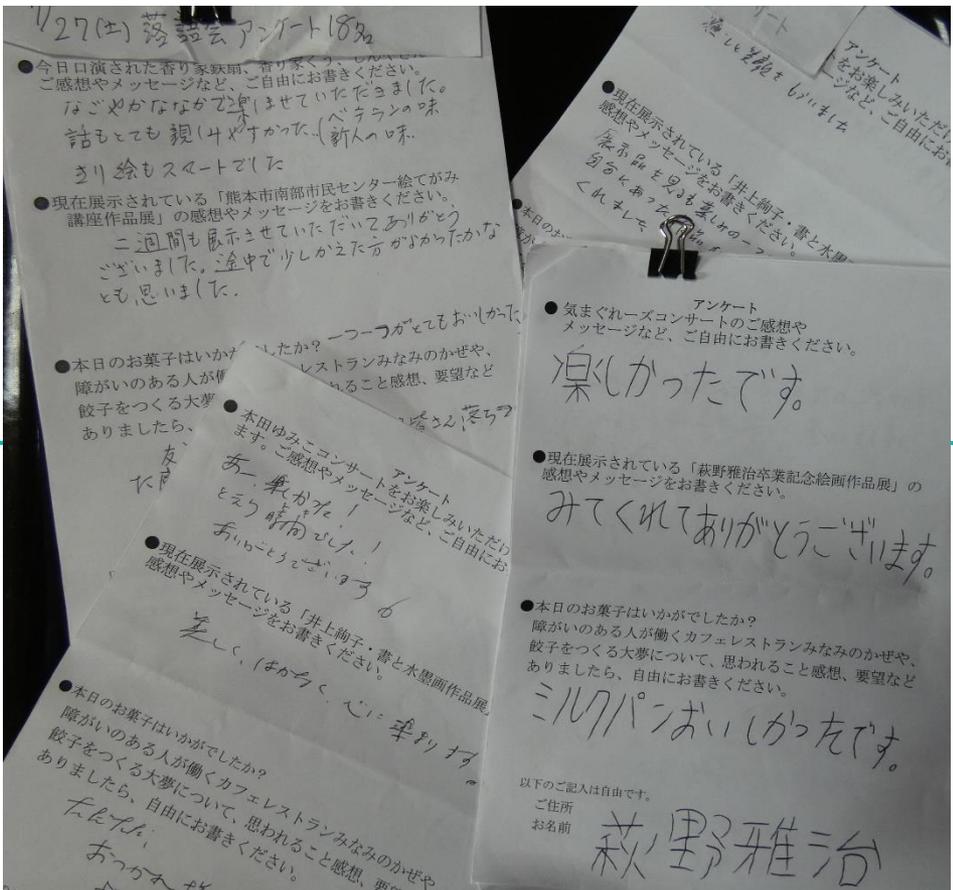
コンサート、落語などイベント開催



発達障害の少年の展示と ファミリーコンサート



作家から鑑賞者へ、鑑賞者から作家への
メッセージや、感想が寄せられる。双方
の思いが、作家にとっても、鑑賞者にとっ
ても、次の活動につながっていく。



人と人をつないでいくことが、地域文化
をつくることにもなるし、災害に対して
強い地域をつくることにもつながる。

(3)成果、市民の声(参加者やサポートを受けた方)

- 生の音楽、目の前で落語を見聞きすることができた。また、テレビなどと違い、自分ひとりではなく、会場みんなといっしょに楽しむことができるということが、うれしかったという感想が寄せられた。
日ごろ障がい者がどういう生活を送っているのか、わかってよかった、という反応があった、障がい者を知ることによって偏見や差別が少しずつ取り払われていくことにつながっていくことができれば、と思う。

(4)今後の事業展開

- わたしたちのまわりで障がい者、高齢者など、社会的弱者、経済的弱者に経済的な負担をあまりかけないで、ほんものの文化・芸術に触れる機会を増やしたい。同時にそれは、地域との交流の場でもあり、弱者当事者にとってのみならず、地域社会にとっても共同することは、豊かな体験となる。その体験は将来において、地域と個人の財産となる。障がい者にとって、表現活動は、自由を獲得することだと考えるが、それが地域全体に広がれば、心豊かな地域へ、誰もが生きやすいあたたかな社会になると思う。